

経済・金融 フラッシュ

タイ 2012年1-3月期GDP: 前年同期比+0.3% ～洪水から急回復も、高成長への課題は残る

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

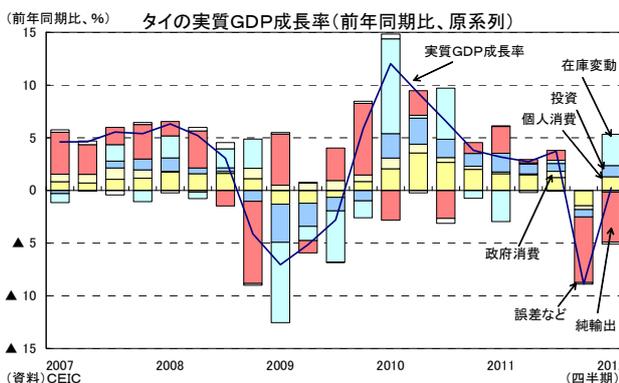
1. 洪水の被害は大きかったが、短期間で回復

タイの国家経済社会開発委員会事務局（NESDB）は5月21日に2012年1-3月期の国内総生産（GDP）を公表した。実質GDP成長率は前年同期比（原系列）で+0.3%となり、洪水被害によって生産活動が鈍化した昨年10-12月期の同▲8.9%からプラスに転じた。前期比年率（季節調整値）で見ると、昨年10-12月期は▲10.8%の急減少、今年1-3月期は+11.0%の大幅改善となった。洪水被害は深刻だったが、回復も急速に進んだ様子が見える。

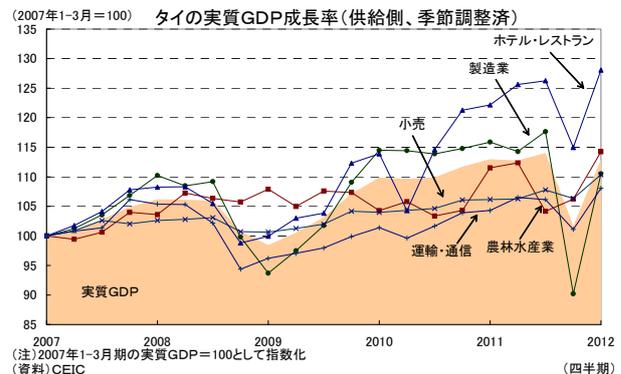
成長の内訳を需要項目別に見ると（図表1）、純輸出は昨年10-12月期に引き続き低迷したが、内需が成長を牽引した。純輸出の低迷は、1-3月期の輸出が前年同期比▲3.2%と減少する一方で輸入が同+4.5%と増加したことによる。輸出は昨年10-12月期（同▲6.4%）からは改善しているものの、先進国向けの輸出が停滞していることから伸び悩んでいる。一方で輸入については国内で洪水被害からの復旧にともなう需要拡大が伸び率を押し上げた。

内需に関しては、1-3月期の個人消費が前年同期比+2.7%、投資が同+5.2%となり、ともにマイナス成長からプラス成長に転じている。投資のうち、今期は洪水によって損傷した機械や設備の取り替えの需要が見られたため、特に民間投資が前年同期比+9.2%と高い伸び記録し、成長の原動力となった¹。

（図表1）



（図表2）



供給項目別（図表2）を見ると、昨年10-12月期の減速からは総じて回復傾向にあるものの、そ

¹ 今期は在庫変動が大きく伸びている（成長率への寄与度で+3.0%ポイント）が、これは国内の生産力が回復しつつあるため、輸出や国内消費を待つ一時的な在庫の積みあがりや、中東の政情が悪化したことによって原油備蓄を積みましていることなどが影響している。また、前年同期の在庫減少が比較的大きかったことも、在庫変動の伸びを大きく見せている要因と考えられる。

の改善幅にはバラツキがあることが見て取れる。小売業やホテル・レストラン業などサービス業の多くは洪水前の水準まで回復しているが、主要産業の製造業（GDPシェアで39%）は洪水前の水準まで回復しておらず、成長を抑制している要因となっている。

2. 2012年5%超への課題

昨年は洪水被害によって、予想以上に経済が停滞したタイ経済であったが、2012年1-3月期はプラス成長を達成し、回復のペースも予想より速く進んでいると考えられる。こうした状況のもと、NESDBは2012年通年で5.5-6.5%、中央銀行は6.0%の高成長を達成すると予測している。

今までは洪水被害からの復旧状況を包括して確認することができなかったが、1-3月期のGDP統計が発表されたことで、生産量が前年並みまで回復したことが明らかになった。それまで政府や中央銀行が予測するような5%を超える成長の達成については懐疑的な点もあったが²、今回の発表で洪水被害から急速に復旧していることが分かり、5%超成長の実現性が高まったと考えられる。

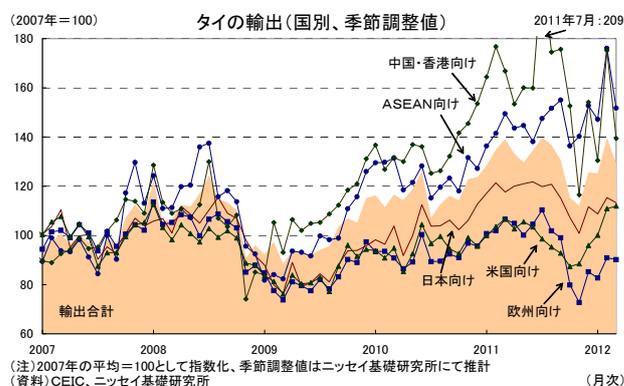
しかし、高成長への課題もまだ多い。ひとつの大きな課題は、製造業の生産がまだ洪水前の水準まで回復していないということである。鉱工業生産指数は昨年12月以降、急速に回復してきたが、3月はやや頭打ちになっている（図表3）。GDP統計からも分かるように、農林水産業とサービス業は順調に回復したが、製造業については完全な回復には至っていない。NESDBは4-6月期には製造業の生産力が洪水前の水準まで回復すると見込んでいるが、実際に早期に生産力を取り戻せるかが高成長実現の鍵になるだろう。

（図表3）

品目	(ウェイト)	2011年			2012年		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合(季節調整済、前月比)	(100.0)	▲29.4	▲23.5	40.4	16.3	10.2	▲4.3
総合(原系列、前年同期比)	(100.0)	▲30.1	▲47.2	▲25.3	▲15.0	▲3.2	▲3.2
飲食製品	(15.5)	▲5.7	1.8	10.2	4.1	14.9	5.0
ラジオ・テレビ・通信機器	(10.7)	▲46.1	▲73.0	▲57.9	▲47.4	▲35.8	▲32.4
石油精製	(10.4)	▲17.4	▲10.3	3.3	7.0	55.6	16.7
家具など	(7.5)	▲20.0	▲21.9	25.6	▲0.1	6.9	▲3.4
織物	(7.3)	▲35.0	▲46.5	▲35.6	▲38.2	▲26.5	▲25.1
事務用機器	(7.2)	▲32.4	▲77.2	▲55.7	▲32.0	▲20.3	▲9.9
(うちHDD)	(4.6)	(▲32.2)	(▲77.1)	(▲55.7)	(▲32.0)	(▲20.3)	(▲9.9)
衣類	(7.1)	▲31.0	▲34.4	▲16.0	▲19.8	▲13.4	▲17.1
輸送用機械	(5.4)	▲66.1	▲84.0	▲30.4	▲2.9	10.7	14.7
非金属製品	(4.8)	▲7.1	▲11.5	▲0.8	4.7	8.6	6.5
化学製品	(4.4)	▲19.7	▲16.5	8.2	8.1	12.4	4.3
革製品	(4.2)	▲31.8	▲36.0	▲26.0	▲36.4	▲33.1	▲24.6
ゴム・プラスチック製品	(4.0)	▲1.9	▲9.4	▲8.2	▲3.2	3.9	2.4

(注) ウェイトで4%以上の産業のみ記載
(資料) OIE

（図表4）



(注) 2007年の平均=100として指数化、季節調整値はニッセイ基礎研究所にて推計
(資料) CEIC、ニッセイ基礎研究所 (月次)

もうひとつの課題は、外需の環境が改善していない点である。すでに述べたように、日米欧などの先進国を中心に輸出の伸び悩みが見られる（図表4）。債務問題を抱える欧州など先進国は力強い成長は見込みにくく、タイの輸出を牽引する力は無い。加えて、今後は主要輸出相手の中国など新興国の成長も穏やかになると想定される。こうした状況下では、タイが洪水被害から回復したとしても、輸出が大きく増加することは見込みにくく、輸出主導国のタイにとっては苦しい状況にある。したがって、タイが高成長を遂げるためには、内需の活性化が重要になる。そのためには、復興のための投資をどれだけ効率的に実行できるか、また、政府の最低賃金引上げなどの政策によって消費がどれだけ活性化するかといった点が重要になるだろう。

² 3月時点におけるニッセイ基礎研究所の経済見通しでは、タイの2012年の成長率を3.0%と予測している。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。